けん玉

去年は「昔遊の遊びクラブ」の担当をしていました。クラブでは、何回かけん玉をやったことがあります。先生の子どものころにもあったのですが、先生はあまりけん玉はやらず、「こま」か「ビー玉」でした。日本には全校で「けん玉」に取り組んでいる学校もあります。いろんな級があるようですが、今回は、けん玉の主な技の紹介です。

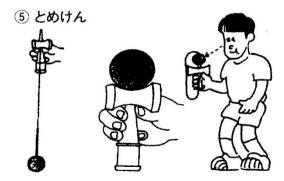
基本技10のパターン

①大皿

けん先を下に向けてかまえる。 下にさげた玉を垂直にひきあ げて大皿にのせる。

③ 中皿





下にさげた玉を垂直にひきあげて、けんに入れる。このとき、玉をまわしてはいけない。

② 小皿

大皿と同じようにけん先を下に向けてかまえ、小皿にのせる。

4 ろうそく

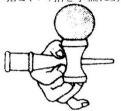
けん先に持ったかまえから、中 皿にのせる。くすり指を親指の下にあてると、ぐらぐらしない。



けんを大きく前にふって、けん先を玉の穴に入れる。けんを持つとき、親指を上から軽く押さえるのがコツ。

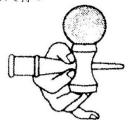
正しい持ち方 A

親指と人さし指でけん玉をしっかり持つ その時、親指と人さし指がビッタリくっつか ないように注意しよう。正しい持ち方がで きたら、中指とくすり指を小皿にあてがう



正しい持ち方 B

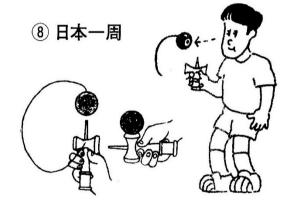
とめけん、ふりけん、日本一周、世界一周は、 この持ち方で行うこの場合も親指と入さし 指を皿胴につけて持つ



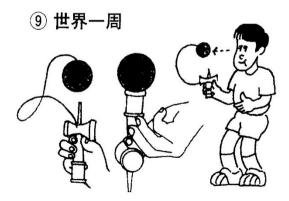
これができれば、プロフェッショナル!



けんを持って玉を大きくふり出し、一回 転してくるところを、けんで突きさす。



これは連続技のひとつで小皿→大皿 とのせてから、けん先に入れる。



これも連続技のひとつ。小皿→大皿 →中皿にのせて、けんへ入れる。

⑩灯台

下にさげたけんを 垂直にひきあげ、 玉の上に立てる。



